

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870102955
事業所名	グループホームたいさんじ
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	井上真吾
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 15 日

<p>【事業所理念】</p> <p>地域の人たちとのかかわりを大切にし元気で穏やかにみんなと共に暮らすところです</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○利用者に対する言葉使いや、プライバシーに対する配慮がかけている。(結果)以前よりは減ったが、統一できていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>松山市中心部から少し離れた静かな環境の場所に2階建ての事業所はあり、リビングの窓からは、のどかな田園風景や山々を眺めることができる。約1年半前に前法人から経営を引き継ぎ、数名の職員の入れ替わりがあったものの、継続した勤務歴の長い職員も多く、新しい施設長と長年勤務経験のある職員が管理者となり、新体制で事業所の運営にあっている。利用者の入居年数とともに職員の勤務年数も長くなり、馴染みの関係が構築されているものの、施設長等は馴れ馴れしい対応で利用者のケアにあたらぬように注意喚起しながら、利用者の後ろから急に声をかけないことや、少しの車いす移動でも座っている利用者に声をかけてから移動するなど、周知徹底に努め、職員間に浸透している。また、コロナ禍において、外出や家族の面会などが激減しているものの、去年の夏には利用者が浴衣を着て写真を撮影するなど、事業所内で、利用者が少しでも楽しく過ごせるよう工夫しながら支援している。さらに、事業所には看護師が3人配置されているとともに、医師である代表者も、日常的に利用者の往診で来訪していることもあり、利用者や家族、職員には安心感がある。加えて、法人の理学療法士が事業所を訪問し、必要に応じて、利用者はリハビリを受けることもできている。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	食事、排せつ、更衣など訪ねていこうを確認している。	○	/	◎	入居前に、職員は利用者や家族から、思いや暮らし方の意向を確認している。また、日々の生活の中で、利用者の希望を聞いたり、表情等から汲み取りをしたりしながら、日常の中で表した思いを記録に残している。さらに、聞き取った内容はアセスメントシートや生活記録に記載するとともに、職員全員で共有して、日々のケアに活かせるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や顔色を確認、観察している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	電話や面会時に聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	記録は細かくできている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員の思い込みや決めつけが見受けられる。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時や家族へ連絡を取った際に聞いている。	/	/	◎	入居時に、管理者等が利用者の生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方などの情報収集を行い、記録に残して把握するよう努めている。また、入居前に自宅で過ごしている利用者には、管理者等が訪問を行い、利用者や家族から話しを聞くこともある。さらに、入居前に利用していた介護サービス事業所の担当者や介護支援専門員からも情報を聞くほか、病院からサマリーの提供を受けることもある。加えて、把握した情報をもとにして、利用者が大切にしてきたことやこだわりなどを継続できるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	顔色、表情を見ながらできることを把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	1対1の際に本音を言うことがあり、不安な思いを聞いている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	身体的、物忘れ、コロナ、職員の対応など把握をしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	体調や不安な時間など把握できている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ミーティングや申し送りなどで話し合っている。	/	/	○	利用者本人が、何を求めて、何を必要としているかを、利用者や家族から聞き取った意見や要望をもとに、センター方式のアセスメントシートを使用して情報を整理するとともに、職員間で話し合いをしている。また、6か月に1回、介護計画の更新時に合わせて、担当職員がアセスメントシートの情報を、他の職員に相談しながら更新をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	その日の出勤者で話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	介護計画作成時に取り上げている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人にとって優先される内容になっている。				定期的に、利用者や家族から意見や要望を聞くほか、医師や理学療法士などの関係者の意見を取り入れながら、計画作成担当者や担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。また、利用者や家族等の意見が反映された計画の内容となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員同士で話し合ったり、家族に電話で確認している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方の身体に合った過ごし方の内容になっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	地域との協力体制は整っていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	記録に記入し、申し送りで話し合っている。			◎	実施したケア内容は、介護計画のサービス内容の番号と連動させて、分かりやすく記録をすることができている。また、職員は介護計画の内容を理解して、サービス内容に沿ったケアを実践するとともに、職員間でサービスの実施状況を確認することもできる。さらに、日々の利用者の様子は生活記録に記載し、会話やエピソードなど、日常と変わったことがあればその都度記録に残し、状況を詳しく把握することができる。加えて、職員の気づきや工夫も生活記録等に記載し、職員間で情報共有ができるよう努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	申し送り時に話し合っている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	細かく記録できている。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気づきは多い。アイデアの記録は少ない。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に1回は見直しをしている。			◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。毎月実施するミーティングを活用して、利用者の現状確認を行うとともに、6か月に1回モニタリングを実施して評価をしている。また、入退院時など、利用者の状態の変化に応じて、随時見直しを行い、現状に合わせた介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月ミーティングを行っている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	見直しはしているが、新しく作り直すのは、ほぼ行っていない。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ミーティングを行っている。			○	月1回ユニットごとに、ミーティングと研修会を実施している。緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。また、参加できなかった職員には、ミーティングの議事録や申し送りノートを確認してもらい、情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	発言しやすい雰囲気を作っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	時間や場所は参加しやすいものとなっている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	内容を細かく記入したノートがある。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	朝、夕、申し送りを行っている。専用のノートもある。			◎	日々の申し送り時に、口頭で伝達をするとともに、申し送りノートも活用している。また、ノートの確認後には、職員は押印等を行い、職員全員が情報を共有できるような仕組みづくりをして、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ノートを活用できている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人に聞いたり、提案したり寄り添えている。	/	/	/	「何が食べたいか」など、日常的に利用者に献立を決めてもらうことができしており、職員は選択しやすいような声かけをしている。また、着たい服や見たいテレビ番組、飲み物など、利用者が主体となり、選択してもらう機会を作っている。さらに、花の好きな利用者と一緒に花を飾ったり、畑仕事で得意な利用者と一緒に事業所の庭で、トマトやきゅうりなどの野菜づくりや収穫をしたりするなど、日常生活の中で、利用者が楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	おやつやテレビ番組、食事、飲みたい物など聞いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	筆談、聞き取りやすい耳のほうで話すなどできている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	職員が決めてしまっている。決められる方、訴えられる方のみ	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	表情やトーンには気を付けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情を見逃さない。反応や動きを注意深く見ている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	声掛けや言葉が適切ではない場合がある。	/	◎	◎	年配の利用者を敬うとともに、職員は人権や尊厳に配慮した声かけや対応に努めている。施設長や管理者は、職員が利用者との長年のかかわりから、家族のように距離が近くなることで、行き過ぎた馴れ合いが生じてきていないかどうかを危惧しており、配慮したケアを行うように伝えている。時には、耳の遠い利用者には、つい大きな声を出してしまうこともある。また、施設長等は、利用者を「○○ちゃん」などの馴れ合いの呼び方を控えることを考えている。また、居室は利用者のプライベート空間であるということを認識し、職員は居室への入室時には、意識してノックや声かけを行えるよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	配慮に欠ける声掛け、トーンの時がある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	戸口が空いていたり、やや配慮に欠けている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	理解しているが、配慮不足の時がある。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解しており、漏えい防止に努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	その人の得意なことをそれぞれにやってもらっている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や性格を把握して、食事の時の配席など、未然にトラブルを防ぐように努めている。また、世話好きの利用者には、他の利用者の見守りや気配りなどの力を発揮してもらうとともに、仲の良い利用者同士が居室を行き来するなど、支えあいやかかわりを職員は見守りながら支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	気の合う人同士、支えあったりしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	席の工夫、話しやすい角度など支援に努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルにならないよう、間に入るなどしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	把握不足などがあり、すべてはわかっていない。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	把握できていない部分がある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナの影響もあり、たいぶ途切れている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	コロナの影響もあり、面会謝絶状態である。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナの影響もあり、外出はない。	×	○	○	コロナ禍以前は、散歩やドライブに出かけることができていたが、現在のコロナ禍において、事業所では外出できない期間が続き、外出する機会は激減している。現在は、事業所の庭先から、のどかな田園風景を眺めてもらいながら、重度の利用者も含めて屋内から一歩出て外気浴をするなど、少しでも利用者が気分転換できるよう取り組んでいる。また、感染状況を確認しながら、今年の春には桜を見にドライブをして出かけることができたので、現在は秋のコスモスなどの花を見に行けるようなドライブを計画している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	全く行っていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	外出はない。稀に玄関ポーチに出ている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	希望の把握ができていない。特に支援も行っていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	理解するよう心掛けている。状況の把握できている。				6か月に1回、情報を更新しているアセスメントシートを活用して、担当職員を中心に、定期的に利用者のできることやできないことを確認している。また、できることやできそうなことに、職員が手や口を出し過ぎないように努め、生活リハビリなど、利用者の心身機能の維持向上に努めている。さらに、法人の理学療法士の来訪があり、必要に応じて、利用者はリハビリを受けることもできる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	できる、できないの把握に努めている。場合により介助している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できることはしてもらっている。その環境も整えている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	好きな物、楽しみ、役割の把握できている。				調理の下ごしらえや後片付け、掃除、洗濯物たたみなど、可能な範囲で利用者に役割を担ってもらい、力を発揮してもらっている。また、心身機能の変化に応じて、利用者のできることは少なくなってきたものの、その状況に応じた無理のない範囲で、小物をたたんでもらうなどできることをしてもらい、少しでも張り合いを感じてもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	取り組みを行っていない。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域との関わり合いがない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ほぼ把握できている。個々に応じて対応できている。				<p>整容の乱れや食べこぼしなどの汚れが見られた場合には、そのままの状態にならないよう職員が目配り、利用者の羞恥心に配慮しながら、着替えなどの対応をしている。中には、化粧や化粧水をつけることを日課としている利用者もいる。また、利用者の希望で、職員が白髪の毛染めを手伝って大変喜ばれたり、日替わりで色々な髪留めピンを選んだりするなど、利用者がおしゃれを楽しめるよう支援している。さらに、ベッド上で過ごすことが多い利用者は、パジャマを着て過ごすことが多くなっているものの、職員が整容の気配りをしている。</p>
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	選んだりできる方は希望通りにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	添えていないことがある。職員が決めていることが多い。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	×	行事に合わせて更衣していない。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	×	できていない。汚れたままのことが多い。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	GHが契約している訪問美容を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	工夫や支援はしていない。			△	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	全職員が把握、理解している。				<p>利用者のリクエストを取り入れながら、職員が交代で献立を作成している。食材は、職員が買い物に出かけるほか、業者に配達してもらっている。包丁での野菜の皮むきや下ごしらえ、後片付けなど、利用者のできることを手伝ってもらいながら、職員が調理している。畑で収穫したトマトやキュウリなどの野菜が食卓に上がるとともに、旬の食材を使用する工夫をしている。食器類は、利用者一人ひとりが使いやすい物を使用している。職員は、利用者の介助や見守りをしながら、同じ食卓を囲んで同じメニューを食べることができている。また、キッチンリビングの一角にあり、重度の利用者も調理の音や匂いなどを感じることができている。さらに、利用者の状態に応じて、ミキサー食や刻みなどの食事形態にも対応をしている。加えて、日常的に、職員は、「食べやすかったか、味付けはどうか」などの声をかけて、利用者の声を参考にしながら職員間で話し合い、栄養バランスにも考慮した献立を作成している。</p>
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	できる方と献立を考え、共に調理している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	職員だけでならず、できる方としている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	全員の把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節に応じた食べ物、献立を取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	彩、組み合わせ、お皿の大きさなど工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	それぞれが、使い易いものを使っている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	さりげなく行っているが、そうでない場合が見られる。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	音やにおいを感じられる距離、作りになっている。		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	その人に合った量を提供している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	提供時間、食べやすい形状など工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	話し合っておらず、個々のバランスで作成している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	期限や見た目、においなど気を付けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解しており、勉強会も定期的にある。				各居室に洗面台があり、毎食後に利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。介助や見守りを行っている利用者の口腔内の状況は確認することができているものの、自分で歯磨きができる利用者までは、磨き残しや口腔内の状況を把握することができていない。今後は、事前に決めた日に確認するなど、定期的に全ての利用者の口腔内の状況が確認できるよう、職員間で検討することを期待したい。また、異常が見られた場合には、歯科医の往診につなげている。さらに、口腔ケアが誤嚥性肺炎や全身への影響につながるなど、定期的に研修を実施して、職員に口腔ケアの重要性の理解が深められることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	全員の分は把握しきれていない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	活かせていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	自分でできる方の把握はあまりできていない。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	自分でできる方のチェックまではできていない。				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科の利用をしており、その都度、対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できるだけトイレでの排せつを心がけており、理解できている。				寝たきりなどの状態に応じて、常時おむつを使用している利用者もいる。利用者一人ひとりの排泄パターン等に合わせ、タイミングを見計らいながら、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、事業所では、おむつやパッドなどの排泄用品に頼りすぎないように、利用者の希望や状態に合わせた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	どのような影響があるか理解できている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表にて全員の把握を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	皆で話し合い、必要に応じて使用している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	力を入れられないなど原因を探っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	その方の間隔を理解しており、対応できている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	家族、職員重視の決め方になっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	身体機能の状態、量により使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	工夫はしているが、便秘薬を使用している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	一人一人の希望には添えておらず、職員の都合になってしまっている。	◎		○	週2～3回を基本として、利用者は入浴をすることができる。身体の状態に応じて、湯船に浸かることが難しい利用者には、足浴をしながら、シャワー浴をしてリラックスできるように努めている。また、施設長等は、「入浴回数や時間帯など、利用者の希望があれば、状況によって対応したい」と考えているものの、その日の勤務体制の職員数などにより、希望に沿うことが難しい場合もある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	△	くつろげていない。職員のベースになっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できるところは自分でしてもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	△	声をかけても、日を変えても入らない方は、無理強いになっている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入る前の健康チェックは毎回行っている。				

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	一人ひとりのパターンを把握できている。	/	/	/	睡眠導入剤などの服薬を継続している利用者もおり、主治医と状態を相談しながら対応をしている。また、昼夜逆転しそうな利用者には、日中には極力起きてもらい、過ごし方を工夫しながら生活リズムを整え、夜間安眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人に合った過ごし方をしてもらっている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	相談し、必要に応じて導入剤を服用してもらっている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ほとんどの方が横になって休んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	支援しておらず、ハガキがきたら手渡すのみである。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	あちらから連絡があったら取り次いでいる。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話できる環境は整っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いたら本人にその都度、手渡している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	定期的に電話をしている利用者がある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しており、持っている方もいる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	作っていない。買い物にも行っていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	働きかけを行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談はしている。持っていた方が良い方は持っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人、家族と話して決めている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月、家族へ送っている。家族の同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	病院受診の付き添いを行っている。	◎	/	○	利用者や家族のその時々々の希望に応じて、柔軟な対応や支援を行うように心がけている。現在のコロナ禍において、面会や外出制限が設けられており、可能な範囲で対応をしている。また、コロナ禍以前には、家族との外泊や外出などの支援にも対応することができていた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を植えている。	◎	◎	◎	建物には清潔感があり、すっきりとした玄関周辺は開放的な雰囲気となっている。また、庭は家庭菜園や洗濯物を干すスペースにも活用され、程良い生活空間を感じることができる。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	花や絵を飾ったり、季節に応じたものを吊るしたり工夫できている。	○	◎	○	リビングの窓から、四季折々ののどかな風景を眺めることができる。食器棚や調理用品も、自然に目につく場所に置かれ、生活する様子を感じることができる。また、畳スペースがあり、現在は身体状態により、使用する利用者は少ないが、休憩スペースとしても活用されていた。また、リビングや廊下にはすが置かれ、利用者が休みながら移動する際に活用されている。さらに、事業所内は換気や掃除が行き届き、清潔感のある空間となっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	目に見える場所の掃除しかできていない。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節がわかるように、季節に応じた物を飾っている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	過ごしやすい場所、席を工夫して配置している。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	構造上、食卓からは見えないようになっている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたものを置いている方もいる。	○		○	居室には、ベッドやエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。また、馴染みの物を持ち込むことができるほか、家族の写真や好みの雑貨などが置かれ、利用者一人ひとりに合わせた居心地の良い空間となるよう工夫している。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差もなく、手すりもあり、通路には物を置いていない。			◎	利用者が迷わないように、居室の入り口に名前をかけたリ、浴室やトイレにもプレートをつけて、分かりやすくしている。また、新聞は利用者の目の届く場所に置かれ、自由に読むことができるようになっている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室にはネームプレートを吊っている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	目に見える場所にはあるが、手の届く場所には新聞しか置いていない。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	理解できている。日中は鍵をかけず、出入り中になっている。	◎	◎	◎	玄関とユニット入り口は、日中は開放している。夜間は防犯のため、施錠をしている。ユニット入り口にはセンサーチャイムの設置があり、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。また、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、外に出たい利用者には付き添い、落ち着いてもらえるような対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	施錠を希望する家族はいない。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	センサーがあり、出入りの確認はしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	すべての把握はできておらず、わかっていない病気があるかもしれない。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	表情、熱感など変わったことを報告相談、必要に応じて連絡している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	ナースに報告相談し、必要に応じて往診や受診をしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居した後に、近くの病院に変わる方が多い。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望通りにならない方もいるが、相談して納得を得ている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じて話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	本人に関する情報提供は必ず行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時は病室訪問、関係者とのやりとりはおこなっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	特に行っていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	ナースに報告できている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	相談できる体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	変化があったら、ナースに報告し、先生の指示をもらうという流れができている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	全部はわかっていないが、				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	防ぐ方法として、セッティングは2名の目で確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	全職員で表情や動作を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化があればその都度、ナースに報告したりHpに連絡している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居したとき、体調が悪くなり、終末期が迫った場合に、話している。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、利用者や家族に事業所で対応できることを説明するとともに、終末期のあり方を利用者や家族の希望や意向を口頭やアンケート形式の書面を使用して丁寧に確認している。また、利用者や家族の要望に応じて、看取り介護を実践しており、重度化などの状態に応じて、主治医や関係者と話し合いながら、方針を共有している。今後は、看取り介護の実施に至った経過や実際の対応を振り返りながら職員全員で共有するとともに、次回の看取り介護に活かせるような取組みを期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	方針は共有できている。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	見極めており、力量に応じた対応をしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ホームでできること、できないことを家族と話し合っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療との連携体制はできている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	それぞれの家族間の配慮や考慮できている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	年に1回は研修を行い勉強している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練まではできていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	市や保健所などからの最新の情報を取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビからの情報である。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いや頻度の高い消毒は行っているが、うがいはできていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	物をもってきてくれたり、薬を届けてくれたりしている。				<p>コロナ禍以前は、事業所の行事に家族の参加を呼びかけて、参加協力してもらうとともに、年1回家族会を実施することもできていた。現在のコロナ禍において、事業所では面会制限も続いており、施設長自ら、毎月家族に電話連絡を行い、話す機会を作っている。また、毎月送付している「たいさんじ通信」には、事業所の出来事や紙パンツやパッド類のメーカー変更に伴う価格、設備などを丁寧に報告するとともに、心温まる一文も添えられている。さらに、携帯電話のLINE機能を活用して、写真の送信や連絡を取り合っている家族もおり、家族の状況に合わせて、コミュニケーションが取りやすい方法を考えている。加えて、日頃から職員は利用者の写真をよく撮影しているため、利用者の日常の様子が家族から見えにくい状況の中において、利用者等の個人情報に配慮しながら、家族に利用者の様子や事業所での行事や出来事が分かりやすいように、写真を同封するなどの工夫を職員間で検討することを期待したい。</p>
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	×	コロナ禍の為、訪れることがかなり減っている。来ても、ガラス越しでの面会となっている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナにより、行っていない。		○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	メールや電話、たいさんじ通信などしている。		◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	気になっていること、家族が気になっていることは報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	心身の状態、原因など変化はその都度報告している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月報告している。		×	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ禍の為、していない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	起こる危険線などは説明できている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	×	コロナの為、行っていない。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	納得を得るような説明はできている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明を行い、納得した上で進めている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書を作成し説明し、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	設立時の者がいないため不明。	/	○	/	コロナ禍以前は、地区の公民館に出かけたり、地域行事に参加したり、事業所のお祭りに地域住民が参加協力をしてもらうなど、交流することができていた。現在のコロナ禍において、地域行事が中止になり、地域住民と利用者が顔を合わす機会もなくなっている。また、日常的に、職員は地域住民とのあいさつを交わすとともに、近隣住民から畑で採れた野菜の差し入れをもらうなど、良好な関係を継続することができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	地域の行事の参加はおこなっていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	関りがなく、増えていない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ禍のため、来ていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	日常的な付き合い自体がない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍のため、働きかけ自体を行っていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	支援できていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	特に行っていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナ前までは、参加があった。現在は文書開催にしており、意見をもらっている。	/	◎	○	運営推進会議は、家族や民生委員、公民館長、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催している。現在のコロナ禍において、集合形式の会議は開催されず、書面での会議開催となっているものの、事前に案内文書を会議メンバーや全ての家族に送付して、意見や要望を聞いている。また、会議録を家族や地域住民等に、内容を分かりやすくまとめて送付するとともに、事業所の取組み状況なども報告できることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	サービス状況結果を報告している。	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加しやすいように平日の昼頃にきめている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	フロアに掲示している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に沿い、基づいて日々取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入口に掲げている。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	2か月に1回は研修を行っている。				医師である代表者は、日頃から往診で事業所に来訪しており、利用者や職員とのかかわりの中で話す機会もあり、信頼関係を築いている。また、施設長は現場で職員と一緒に利用者のケアにあたっており、職員は相談しやすい環境となっている。さらに、職員の要望は施設長を通して、代表者にすぐに伝えることができ、意見や要望を取り入れながら働きやすい職場環境づくりに努め、勤務経験の長い職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	学習として定期的な研修を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給与は代表者がしている。環境については考えて整えられている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	連絡会への参加をしている。定期的な勉強会も行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	人員が不足しがちななどストレスを感じている職員は多い。環境を整える必要がある。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会で理解を深めている。全職員、理解できている。				虐待や不適切なケアなど、職員は研修で学ぶとともに、不適切な行為が見られた場合の対応を理解している。日頃から、施設長や管理者は、不適切なケアとは具体的にどのような行為なのか、言葉づかいなどを含めて、職員に伝えることができています。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	作れている。話し合う機会はきちんと設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会、資料提供など対応方法は個々が理解している。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の組み合わせ、人数など配慮している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	ミーティングや申し送りなどで話し合っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	話し合いの場を設けており、理解している。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	行わなくてもよいケアの方法を提案し、話し合っている。				

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	理解できていない部分が多い。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	情報提供、相談など行っている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターと連携している。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルがあり、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	訓練はしていない。これから取り入れなければならない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ミーティングで話し合い、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	それぞれの危険性を踏まえ、防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	マニュアルがあるが、理解や検討をしていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	代表者が行っており、現在のところ、大きな苦情もない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	特になく、あった場合は検討し話し合う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ご意見箱を置いている。運営推進会議のハガキに意見を書く欄がある。			○	日々のかかわりの中で、職員は利用者の要望や意見は聞くほか、汲み取れるよう努めている。コロナ禍において、面会制限が設けられているため、家族からの意見は、毎月行う電話連絡時に意見を聞くとともに、運営推進会議の開催案内時に意見や要望を記入してもらおうようにしている。また、管理者は、事業所での勤務歴が長く、実際に職員と一緒にケアなどの業務を行っていることもあり、日常的に職員の意見や提案を聞くことができ、利用者本位の支援を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	電話やメールなど聞く機会は設けている。		○	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場にいる時間が多く、直接聞いてくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ひとりひとり聞いている。			◎	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	災害に応じたマニュアル作成をしている。コルクボードに掲げている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、各ユニットのリーダーが取りまとめて作成している。サービスの評価結果や目標達成計画を運営推進会議で報告しているものの、取り組み状況の確認などのモニター機能までは実施することができていない。コロナ禍の収束後には、目標達成計画等の取り組み状況を随時報告するとともに、会議の参加メンバーや家族にモニターを呼びかけて、意見や助言がもらえることを期待したい。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	明らかにしているが、活かせていない。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	作成し、掲げているが取り組みが薄い。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	モニターしてもらっていない。	○	×	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告している。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	それぞれのマニュアルがあり、掲げている。				事業所は、松山市のハザードマップの対象地域にあり、水害の危険性があるため、避難計画を作成するとともに、運営推進会議を活用して、災害の話し合いをしている。実際に事業所では、2階に垂直避難する訓練を実施しており、近隣の田んぼが池状態となった場合を避難の目安と決め、職員全員が把握している。また、事業所はオール電化のため、停電した際の備えや非常用品の備えについても、職員間で再検討することを期待したい。さらに、職員の非常時の連絡網の活用を再確認したり、コロナ禍の収束後には、地域の防災訓練に参加協力したり、事業所の訓練に地域住民に呼びかけて合同訓練を実施したりするなど、少しずつ協力支援体制が図れることを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	年2回は行っている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	定期には行っていない。不足しているものもたくさんある。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	連携を図れておらず、支援体制を確保していない。		△	◎		△
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	共同訓練は行っていない。ネットワークづくりもしていない。					
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	特に活動は行っていない。					
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていない。		○	△	今までに、地域の高齢者や家族から相談があったことはないが、相談があった場合には適切な対応をする体制はできている。今後は、法人と協力しながら、相談体制を強化していくことを期待したい。さらに、日頃から、市行政や地域包括支援センターと連携が図れており、良好な関係を築いている。	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍の為行っていない。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	していない。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	できていない。			○		

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870102955
事業所名 (ユニット名)	グループホームたいさんじ 2階
記入者(管理者) 氏名	井上真吾
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 15 日

<p>【事業所理念】</p> <p>地域の人たちとのかかわりを大切に元気で穏やかにみんなと共に暮らすところです</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○利用者に対する言葉遣いや、プライバシーに対する配慮がかけている。(結果)以前よりは減ったが、統一できていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>松山市中心部から少し離れた静かな環境の場所に2階建ての事業所はあり、リビングの窓からは、のどかな田園風景や山々を眺めることができる。約1年半前に前法人から経営を引き継ぎ、数名の職員の入れ替わりがあったものの、継続した勤務歴の長い職員も多く、新しい施設長と長年勤務経験のある職員が管理者となり、新体制で事業所の運営にあっている。利用者の入居年数とともに職員の勤務年数も長くなり、馴染みの関係が構築されているものの、施設長等は馴れ馴れしい対応で利用者のケアにあたらぬように注意喚起しながら、利用者の後ろから急に声をかけないことや、少しの車いす移動でも座っている利用者に声をかけてから移動するなど、周知徹底に努め、職員間に浸透している。また、コロナ禍において、外出や家族の面会などが激減しているものの、去年の夏には利用者が浴衣を着て写真を撮影するなど、事業所内で、利用者が少しでも楽しく過ごせるよう工夫しながら支援している。さらに、事業所には看護師が3人配置されているとともに、医師である代表者も、日常的に利用者の往診で来訪していることもあり、利用者や家族、職員には安心感がある。加えて、法人の理学療法士が事業所を訪問し、必要に応じて、利用者はリハビリを受けることもできている。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	聞ける方には聞いてどうしたいか決めている。	○	/	◎	入居前に、職員は利用者や家族から、思いや暮らし方の意向を確認している。また、日々の生活の中で、利用者の希望を聞いたり、表情等から汲み取りをしたりしながら、日常の中で表した思いを記録に残している。さらに、聞き取った内容はアセスメントシートや生活記録に記載するとともに、職員全員で共有して、日々のケアに活かせるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人目線で考えて対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族との関わりは少なく、あまり対応できていない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	生活記録に記入している。申し送りもしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人に聞いて、見落とさないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	責任者が入居時に家族や友人に聞いている。	/	/	◎	入居時に、管理者等が利用者の生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方などの情報収集を行い、記録に残して把握するよう努めている。また、入居前に自宅で過ごしている利用者には、管理者等が訪問を行い、利用者や家族から話しを聞くこともある。さらに、入居前に利用していた介護サービス事業所の担当者や介護支援専門員からも情報を聞くほか、病院からサマリーの提供を受けることもある。加えて、把握した情報をもとにして、利用者が大切にしてきたことやこだわりなどを継続できるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人の様子を見ながら理解できるようにしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	本人の様子を見ながら把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	いろいろなパターンを見て考えるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日常の変化を職員同士で話している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ミーティングで話し合っている。	/	/	○	利用者本人が、何を求めて、何を必要としているかを、利用者や家族から聞き取った意見や要望をもとに、センター方式のアセスメントシートを使用して情報を整理するとともに、職員間で話し合いをしている。また、6か月に1回、介護計画の更新時に合わせて、担当職員がアセスメントシートの情報を、他の職員に相談しながら更新をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティングや職員間で話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の希望に沿えるように検討して明らかにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人視点で考えるようにしている。				定期的に、利用者や家族から意見や要望を聞くほか、医師や理学療法士などの関係者の意見を取り入れながら、計画作成担当者や担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。また、利用者や家族等の意見が反映された計画の内容となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	必要に応じて家族と連絡をとっている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	職員の意向が多い				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	コロナの為、地域とのかかわりが無い。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ミーティングで話し合っている。			◎	実施したケア内容は、介護計画のサービス内容の番号と連動させて、分かりやすく記録をすることができている。また、職員は介護計画の内容を理解して、サービス内容に沿ったケアを実践するとともに、職員間でサービスの実施状況を確認することもできる。さらに、日々の利用者の様子は生活記録に記載し、会話やエピソードなど、日常と変わったことがあればその都度記録に残し、状況を詳しく把握することができる。加えて、職員の気づきや工夫も生活記録等に記載し、職員間で情報共有ができるよう努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ミーティングで話し合い必要であれば追加している。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人個人の記録ができている。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	記録し、みんなで共有している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じた見直しができている。			◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。毎月実施するミーティングを活用して、利用者の現状確認を行うとともに、6か月に1回モニタリングを実施して評価をしている。また、入退院時など、利用者の状態の変化に応じて、随時見直しを行い、現状に合わせた介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ミーティングで話し合っている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	大きな変化があれば変えている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	その都度は行っていない。			○	月1回ユニットごとに、ミーティングと研修会を実施している。緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。また、参加できなかった職員には、ミーティングの議事録や申し送りノートを確認してもらい、情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ミーティングでは意見交換を行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限り、集積しているができないこともある。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	専用のノートがある。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを共有している。			◎	日々の申し送り時に、口頭で伝達をするとともに、申し送りノートも活用している。また、ノートの確認後には、職員は押印等を行い、職員全員が情報を共有できるような仕組みづくりをして、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	職員が集まり、申し送りを行っている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	できることを考えているが、同じことになってしまっている。	/	/	/	「何が食べたいか」など、日常的に利用者に献立を決めてもらうことができ、職員は選択しやすいような声かけをしている。また、着たい服や見たいテレビ番組、飲み物など、利用者が主体となり、選択してもらう機会を作っている。さらに、花の好きな利用者と一緒に花を飾ったり、畑仕事で得意な利用者と一緒に事業所の庭で、トマトやきゅうりなどの野菜づくりや収穫をしたりするなど、日常生活の中で、利用者が楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着たい服、食べたい物を選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	選べる場面を作っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	職員のペースになっていることが多い。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人の様子を見ながら声をかけている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	職員の思い込みもあるが、わかるように表情をみている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権、尊厳の在り方を頭に入れ、年配の方として敬うように対応している。	◎	◎	○	年配の利用者を敬うとともに、職員は人権や尊厳に配慮した声かけや対応に努めている。施設長や管理者は、職員が利用者との長年のかかわりから、家族のように距離が近くなることで、行き過ぎた馴れ合いが生じてきていないかどうかを危惧しており、配慮したケアを行うように伝えている。時には、耳の遠い利用者には、つい大きな声を出してしまうこともある。また、施設長等は、利用者を「○○ちゃん」などの馴れ合いの呼び方を控えることを考えている。また、居室は利用者のプライベート空間であるということを認識し、職員は居室への入室時には、意識してノックや声かけを行えるよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	耳が遠い方が多く、声が大きくなっている。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	自然になるような声掛け、介助を心がけている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	声掛けやノックをしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	外部で中のことを話さないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	感謝の言葉は心がけている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や性格を把握して、食事の時の配席など、未然にトラブルを防ぐように努めている。また、世話好きの利用者には、他の利用者の見守りや気配りなどの力を発揮してもらうとともに、仲の良い利用者同士が居室を行き来するなど、支えあいやかかわりを職員は見守りながら支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	トラブルにならないように見守っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	関係を把握し孤立しないようにしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルにならないように、不安がないように支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	話せていない。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	×	把握できていない。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナの為、外出ができていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	連絡はしているが、コロナで面会はできない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は、ベランダに出て花に水をあげたり、車椅子で散歩している。	×	○	○	コロナ禍以前は、散歩やドライブに出かけることができていたが、現在のコロナ禍において、事業所では外出できない期間が続き、外出する機会は激減している。現在は、事業所の庭先から、のどかな田園風景を眺めてもらいながら、重度の利用者も含めて屋内から一歩出て外気浴をするなど、少しでも利用者が気分転換できるよう取り組んでいる。また、感染状況を確認しながら、今年の春には桜を見にドライブをして出かけることができたので、現在は秋のコスモスなどの花を見に行けるようなドライブを計画している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出できていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	できていない。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナの為、外出できていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人一人の観察をしながら、変化があれば、意見交換したりしている。				6か月に1回、情報を更新しているアセスメントシートを活用して、担当職員を中心に、定期的に利用者のできることやできないことを確認している。また、できることやできそうなことに、職員が手や口を出し過ぎないように努め、生活リハビリなど、利用者の心身機能の維持向上に努めている。さらに、法人の理学療法士の来訪があり、必要に応じて、利用者はリハビリを受けることもできる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	理解しているが、できていない。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できる事は待って、してもらっている。		○	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	充分ではないが、できることをしてもらっている。				調理の下ごしらえや後片付け、掃除、洗濯物たたみなど、可能な範囲で利用者に役割を担ってもらい、力を発揮してもらっている。また、心身機能の変化に応じて、利用者のできることは少なくなってきたものの、その状況に応じた無理のない範囲で、小物をたたんでもらうなどできることをしてもらい、少しでも張り合いを感じてもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できること、できそうなことを探している。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	できていない。				

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	髪をたく、服を選ぶなどしてもらっている。				整容の乱れや食べこぼしなどの汚れが見られた場合には、そのままの状態にならないよう職員が目配り、利用者の羞恥心に配慮しながら、着替えなどの対応をしている。中には、化粧や化粧水をつけることを日課としている利用者もいる。また、利用者の希望で、職員が白髪の毛染めを手伝って大変喜ばれたり、日替わりで色々な髪留めピンを選んだりするなど、利用者がおしゃれを楽しめるよう支援している。さらに、ベッド上で過ごすことが多い利用者は、パジャマを着て過ごすことが多くなっているものの、職員が整容の気配りをしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	好みのものになるように声掛け、支援を行っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	気持ちに沿えるよう、声掛けをしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	外出時は、気を配り、服装を楽しんでもらえるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	汚れていたら、交換するようにしている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	×	訪問美容にまかせている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	服装、においに気を配っている。			△	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	あまりできていない。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	できていない。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	ほとんどの把握できている。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	季節、行事を感じる献立にしている。			◎			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々が食べやすいような配膳にしている。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	○	軽い物、握りやすい物にしている。			○			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	一緒に食事をとり、ペース、食べこぼしへのフォローをさりげなくやっている。			◎			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	同じフロアで作っているため、においを感じている。		◎	◎			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	カロリー計算はしていない。						
k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	△	摂取の機会を増やしたり、ゼリーやプリンを提供している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	受けていない。油ものが続かないようにしている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食洗機で洗浄、期限の確認を徹底している。						

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食事後は必ず、口腔ケアできている。				各居室に洗面台があり、毎食後に利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。介助や見守りを行っている利用者の口腔内の状況は確認することができているものの、自分で歯磨きができる利用者までは、磨き残しや口腔内の状況を把握することができていない。今後は、事前に決めた日に確認するなど、定期的に全ての利用者の口腔内の状況が確認できるよう、職員間で検討することを期待したい。また、異常が見られた場合には、歯科医の往診につなげている。さらに、口腔ケアが誤嚥性肺炎や全身への影響につながるなど、定期的に研修を実施して、職員に口腔ケアの重要性の理解が深められることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握できている方、把握不足の方がいる。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	できていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できていない。部分を支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	口腔ケアができない方もいる。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	必要時、訪問歯科利用している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できている。トイレでの排せつを心がけている。				寝たきりなどの状態に応じて、常時おむつを使用している利用者もいる。利用者一人ひとりの排泄パターン等に合わせ、タイミングを見計らいながら、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、事業所では、おむつやパッドなどの排泄用品に頼りすぎないように、利用者の希望や状態に合わせた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できおり、便秘にならないよう、工夫している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	だいたいのパターンを理解できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	話し合っており、必要な場合に使用している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食べる量、水分量のみで便秘の具合を考えている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間を見て、早めに声掛け、誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	ホームで購入したものを利用することが多く、本人とはなしていない。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	サイズに気を配っている。使い分けできている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	ヨーグルト、果物を取り入れる工夫をしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	一人一人は難しく、希望には添えていない。	◎		○	週2～3回を基本として、利用者は入浴をすることができる。身体の状態に応じて、湯船に浸かることが難しい利用者には、足浴をしながら、シャワー浴をしてリラックスできるように努めている。また、施設長等は、「入浴回数や時間帯など、利用者の希望があれば、状況によって対応したい」と考えているものの、その日の勤務体制の職員数などにより、希望に沿うことが難しい場合もある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	△	シャワー浴に備っており、くつろげない。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	△	狭さ、安全性などで不安な部分もあると思う。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いせず、入れている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックは欠かさずやっている。入浴後も観察できている。				

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	だいたいのパターンを理解できている。	/	/	/	睡眠導入剤などの服薬を継続している利用者もあり、主治医と状態を相談しながら対応をしている。また、昼夜逆転しそうな利用者には、日中には極力起きてもらい、過ごし方を工夫しながら生活リズムを整え、夜間安眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないよう心掛けている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	×	医師に相談しているが、眠薬にたよっていることが、強くある。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	△	休む促しに、拒否する方もいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	難しい場合あり。それに固執する場合がある。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	家族との関係を把握したうえで、判断している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話はいつでもできる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	そのままにはしていない。工夫できている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	お願いはしていない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているが、持っている人はいない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要な物は職員が買っており、一緒に行っていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	働きかけは行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を見て不穏になる方もおり渡していない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と話し合えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	出納帳を作成し、家族に送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	◎	/	○	利用者や家族のその時々々の希望に応じて、柔軟な対応や支援を行うように心がけている。現在のコロナ禍において、面会や外出制限が設けられており、可能な範囲で対応をしている。また、コロナ禍以前には、家族との外泊や外出などの支援にも対応することができていた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	出入りしやすいように工夫している。	◎	◎	◎	建物には清潔感があり、すっきりとした玄関周辺は開放的な雰囲気となっている。また、庭は家庭菜園や洗濯物を干すスペースにも活用され、程良い生活空間を感じることができる。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節ごとに絵を飾ったり、行事がわかるようにしている。	○	◎	○	リビングの窓から、四季折々ののどかな風景を眺めることができる。食器棚や調理用品も、自然に目につく場所に置かれ、生活する様子を感じることができる。また、畳スペースがあり、現在は身体状態により、使用する利用者はいないが、休憩スペースとしても活用されていた。また、リビングや廊下にはすが置かれ、利用者が休みながら移動する際に活用されている。さらに、事業所内は換気や掃除が行き届き、清潔感のある空間となっている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日行っており、空気の入替えも行っている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	届いた野菜を触ってもらったり、飾りつけを行っている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と席を一緒にしている。1人にならないように気を付けている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	戸を開けており、見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	こちらで使い易いと判断したのを使ってもらう場合がある。	○		○	居室には、ベッドやエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。また、馴染みの物を持ち込むことができるほか、家族の写真や好みの雑貨などが置かれ、利用者一人ひとりに合わせた居心地の良い空間となるよう工夫している。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	手すり、名前のプレートはある。				◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	そのものがあることで、不安や混乱にならないように工夫している。				利用者が迷わないように、居室の入り口に名前をかけたリ、浴室やトイレにもプレートをつけて、分かりやすくしている。また、新聞は利用者の目の届く場所に置かれ、自由に読むことができるようになっている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞やお茶などは置いている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解しており、カギはかけない。	◎	◎	◎		玄関とユニット入り口は、日中は開放している。夜間は防犯のため、施錠をしている。ユニット入り口にはセンサーチャイムの設置があり、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。また、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、外に出たい利用者には付き添い、落ち着いてもらえるような対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	望む家族はおらず、のぞまれても話し合う。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	カギをかけることはなく、出入り中になっている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	だいたい把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	いつもの状態をしていて、異常時に早くみつけられるようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気軽に相談、連絡できるような体制になっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	△	家族が望む場所になっている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	△	家族には希望は聞くようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要な連絡はとれている。治療経過も連絡できている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	過ごし方、日常を記入したサマリーを渡している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	情報交換や相談するようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	日頃からは行っていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常的に気づいたことは相談報告している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間連絡とれる体制ができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日の健康チェックを行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	説明書に目を通しており、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ダブルチェックを徹底しており、飲み忘れ、誤薬がないように努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	変化があった場合は薬の関係があるかも考えるようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化があったときは連絡するようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	ドクター、家族との連絡をスムーズに行えるようにしている。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、利用者や家族に事業所に対応できることを説明するとともに、終末期のあり方を利用者や家族の希望や意向を口頭やアンケート形式の書面を使用して丁寧に確認している。また、利用者や家族の要望に応じて、看取り介護を実践しており、重度化などの状態に応じて、主治医や関係者と話し合いながら、方針を共有している。今後は、看取り介護の実施に至った経過や実際の対応を振り返りながら職員全員で共有するとともに、次回の看取り介護に活かせるような取組みを期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	どう経過していくかわかるように話し合い、方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	家族と事前に連絡をとり、どこまで支援できるか見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	十分な説明を行い、理解してもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	手洗いや消毒などでできている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	家族と話す場合、配慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	勉強会を定期的に行っており、学べている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	手順は理解しているが、訓練はしていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	地域包括支援センターからの情報収集をしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	包括などから連絡を受けている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、消毒を行っており、支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族との関係は薄めである。				コロナ禍以前は、事業所の行事に家族の参加を呼びかけて、参加協力してもらうとともに、年1回家族会を実施することもできていた。現在のコロナ禍において、事業所では面会制限も続いており、施設長自ら、毎月家族に電話連絡を行い、話す機会を作っている。また、毎月送付している「たいさんじ通信」には、事業所の出来事や紙パンツやパッド類のメーカー変更に伴う価格、設備などを丁寧に報告するとともに、心温まる一文も添えられている。さらに、携帯電話のLINE機能を活用して、写真の送信や連絡を取り合っている家族もおり、家族の状況に合わせて、コミュニケーションが取りやすい方法を考えている。加えて、日頃から職員は利用者の写真をよく撮影しているため、利用者の日常の様子が家族から見えにくい状況の中において、利用者等の個人情報に配慮しながら、家族に利用者の様子や事業所での行事や出来事が分かりやすいように、写真を同封するなどの工夫を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	いつでも来ていいような環境であるが、現在はコロナ禍で出入りはない。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	現在はコロナ禍で機会を作っていない。		○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	写真やメールを送る方もいるが少ない。		◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話連絡時に報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	あまりできていない。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	新しい機会の導入などは、あれば報告できている。		x	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	現在はコロナの関係でできていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては説明できている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的な連絡でできている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	理解、納得できるような説明をおこなっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	移れるように支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	詳しく説明し、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	図っていると思うが、わからない部分がある。	/	○	/	コロナ禍以前は、地区の公民館に出かけたり、地域行事に参加したり、事業所のお祭りに地域住民が参加協力をしてもらうなど、交流することができていた。現在のコロナ禍において、地域行事が中止になり、地域住民と利用者が顔を合わす機会もなくなっている。また、日常的に、職員は地域住民とのあいさつを交わすとともに、近隣住民から畑で採れた野菜の差し入れをもらうなど、良好な関係を継続することができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	あいさつをおこなっている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	ふえていない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナの為、来ていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	声をかけてもらったことはあった。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	行っていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナ前までは、公民館には行っていた。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナの為、文書での開催である。	/	◎	○	運営推進会議は、家族や民生委員、公民館長、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催している。現在のコロナ禍において、集合形式の会議は開催されず、書面での会議開催となっているものの、事前に案内文書を会議メンバーや全ての家族に送付して、意見や要望を聞いている。また、会議録を家族や地域住民等に、内容を分かりやすくまとめて送付するとともに、事業所の取組み状況なども報告できることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	文書での報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	文書でのやりとりを行い、意見をもらっている。	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	開催時には、平日、14時にしている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	見て取れる場所に吊っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に基づいて取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入口に掲げている。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修案内は行っており、参加している。				医師である代表者は、日頃から往診で事業所に来訪しており、利用者や職員とのかかわりの中で話す機会もあり、信頼関係を築いている。また、施設長は現場で職員と一緒に利用者のケアにあたっており、職員は相談しやすい環境となっている。さらに、職員の要望は施設長を通して、代表者にすぐに伝えることができ、意見や要望を取り入れながら働きやすい職場環境づくりに努め、勤務経験の長い職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	勉強会、働きかけは行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	連絡会の参加をしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休み時間の確保、有給の消化など。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期で研修を行っており、理解できている。				虐待や不適切なケアなど、職員は研修で学ぶとともに、不適切な行為が見られた場合の対応を理解している。日頃から、施設長や管理者は、不適切なケアとは具体的にどのような行為なのか、言葉づかいなどを含めて、職員に伝えることができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティング以外でも話す機会を作っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	わかっており、注意を払っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気に留めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的研修で理解できている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	話し合ったり、個々で気を付けている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	行わない方法を説明し、理解を図っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	充分とは言えない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	こちらからの情報提供はしていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターとの連携がある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	訓練まではできていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ミーティングで検討を行い、再発しないように気を付けている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	リスクや危険を検討できている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情が来るような対応をしないように心がけている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	寄せられた場合は、手順に沿うようにする。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかな対応を心がけている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	機会をつくっており、聞いている。			○	日々のかかわりの中で、職員は利用者の要望や意見は聞くほか、汲み取れるよう努めている。コロナ禍において、面会制限が設けられているため、家族からの意見は、毎月行う電話連絡時に意見を聞くとともに、運営推進会議の開催案内時に意見や要望を記入してもらおうようにしている。また、管理者は、事業所での勤務歴が長く、実際に職員と一緒にケアなどの業務を行っていることもあり、日常的に職員の意見や提案を聞くことができ、利用者本位の支援を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	電話や来訪時に聞いている。		○	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	ご意見箱の設置を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場で話を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや日頃の関わり合いにて聞いている。			◎	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組めている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、各ユニットのリーダーが取りまとめて作成している。サービスの評価結果や目標達成計画を運営推進会議で報告しているものの、取り組み状況の確認などのモニター機能までは実施することができていない。コロナ禍の収束後には、目標達成計画等の取り組み状況を随時報告するとともに、会議の参加メンバーや家族にモニターを呼びかけて、意見や助言がもらえることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	活かしている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	できることから取り組み、達成に向けている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	モニターまではしていない。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	火災、地震、津波についてはできている。				事業所は、松山市のハザードマップの対象地域にあり、水害の危険性があるため、避難計画を作成するとともに、運営推進会議を活用して、災害の話し合いをしている。実際に事業所では、2階に垂直避難する訓練を実施しており、近隣の田んぼが池状態となった場合を避難の目安と決め、職員全員が把握している。また、事業所はオール電化のため、停電した際の備えや非常用品の備えについても、職員間で再検討することを期待したい。さらに、職員の非常時の連絡網の活用を再確認したり、コロナ禍の収束後には、地域の防災訓練に参加協力したり、事業所の訓練に地域住民に呼びかけて合同訓練を実施したりするなど、少しずつ協力支援体制が図れることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の訓練を実施できている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	定期的ではない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	日頃からはできていない。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	×	共同訓練はしていない。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	できていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	地域へ向けてはできていない。		○	△	今までに、地域の高齢者や家族から相談があったことはないが、相談があった場合には適切な対応をする体制はできている。今後は、法人と協力しながら、相談体制を強化していくことを期待したい。さらに、日頃から、市行政や地域包括支援センターと連携が図れており、良好な関係を築いている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	コロナ禍のため解放していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	地域包括支援センターとは連携している。			○	